

## オフィスの業務改革効果を劇的に向上させる業務分析手法（4117252）

オフィスの業務改革効果を劇的に向上させる業務分析手法 - 統計的手法を用いた働き方改革の実践

本講座では多くの経営者が期待している「経済効果を回収できる業務改革」の進め方について解説します。生産性という概念を使って測定をベースに業務改革を進めたいと考えている方を対象にしています。

開催日時	2017年9月12日(火) 10:00-17:00
カテゴリ	事業戦略策定・事業戦略評価 <b>専門スキル</b>
講師	坂本裕司 氏 (株式会社エイチ・ピー・ピー・ティ 代表取締役 ヒューマン・パフォーマンス・エンジニア) 米国ISPI (ナレッジワーカー・ホワイトカラー生産性向上研究団体) 日本支部プレジデントを経て現在に至る。ワーカーの生産性向上技術開発・運用をサポート。
参加費	J U A S 会員/ITC : 33,000円 一般 : 42,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (ユニゾ堀留町二丁目ビル2階)
対象	業務改革を担当する方 <b>中級</b>
開催形式	講義
定員	20名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定番号	ITCC-CPJU9344
ITCA認定時間	6

### 主な内容

オフィスの業務改革に取り組む際、改革目標数値を事前に設定した上で進めていますか。  
そして、その目標に対する達成度を評価できる仕組みを持っていますか。

改革の成功とは、改革開始前に見積もられた改革目標数値（あるべき姿）に対して改革の結果（あるがまま姿）が到達しているかどうかで評価するべきですが、改革開始時の事実と改革の結果（共にあるがままの姿）を比較して成功と称しているケースが散見されます。

本講座では多くの経営者が期待している「経済効果を回収できる業務改革」の進め方について解説します。生産性という概念を使って測定をベースに業務改革を進めたいと考えている方を対象にしています。

<内容>

- 1 効果を最大化させる、「基本機能定義書」の作り方
- 2 関係者と業務分類粒度を揃える、「分析8レベル」の見方
- 3 効果を実益に結びつける、「機会利益」の考え方
- 4 業務実態を 簡単に × 正しく × 楽しく 測定する、「統計的手法」の考え方
- 5 劇的に行動を変える、「デザインアプローチ」の考え方